ビヨンドトゥモロー ジャパン未来スカラーシップ・プログラム 2018　参加者一覧

新沙耶花　　立命館大学政策科学部（大阪学芸高等学校卒業）
幼少期に母と死別、小学生の時から児童養護施設に暮らす。中学生の時に、大学進学を決意し、寝る間も惜しんで勉強に打ち込み、努力を続けてきた。将来は国際協力の仕事に就きたいと考え、大学生活を通して、海外ボランティアに参加していきたい。長い間、自分の生い立ちにはハンディキャップがあり、そのせいで自分は夢を叶えることができないのではないかと心のどこかで思っていたが、1年間のビヨンドトゥモローでの活動を通じて、自分は逆境を乗り越えて夢を叶える力を持っているということに気付いた。自分にとって温かい「マイホーム」であり、また学びのつきない「学び舎」であるビヨンドトゥモローで、恐れることなく積極的に行動していきたい。

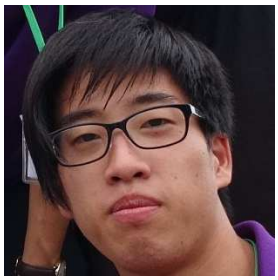
稲村ほのか　　上智大学外国語学部（宮城学院高等学校卒業）
東日本大震災で自宅を失う。帰る家がないことがつらくて、自分だけが取り残されているような気持ちがした。家、思い出、ふるさとをなくしたが、一方で、それをきっかけに出会った仲間、強さ、勇気、弱者を思う心など、失ったものより多くのものを得ることができたと感じている。高校時代、ボリビアに 1 年間留学し、貧困の現状を目の当たりにし、大きな衝撃を受けた。帰国後に参加したビヨンドトゥモローの活動でニューヨークに行ったことをきっかけに、貧困問題にとりくむことを決意。非力な自分も含め、ありのままの自分をさらすことのできるビヨンドトゥモローでの活動を通し、今後、多様な視点から考える能力を身に着けたい。

宇都宮信一　　南山大学経営学部（広島県立呉三津田高等学校卒業）
母子家庭に育ち、父親の顔を知らないことについてそしられた体験から、何かをしたいと思っても、前向きにとらえることができなかったり、夢を諦めようとしたことが多くあった。父親がいないという状況を自分で打開する方法として、学問に取り組むことを決意し、勉強に打ち込んできた。高校 2 年生の時からビヨンドトゥモローの活動に参加し、自分の想いを素直に人に伝えることができるようになり、自分が大きく変わる経験になったと感じている。将来は、企業経営者となり、経営に取り組みつつ、自分のように家庭で問題を抱えた子どもたちがつらい思いをしないようにビヨンドトゥモローのような活動を運営できるようになりたい。

太田蘭　　東京バイオテクノロジー専門学校 DNA コース（兵庫県立農業高等学校卒業）
幼少期から受けていた虐待に耐える日々が続いたが、高校生の時に保護され、児童養護施設に入所した。家庭を離れる時、自分の選んだ道を、自信をもって進むことを決意した。それまで、自発的に何かをすることがない人生だったが、自分で道を選び、その道を突き進んでいくことを決めた。中学生の時、無償の愛を注いでくれた祖母が糖尿病で他界した経験から、遺伝子工学を学べる専門学校に進学し、遺伝因子型疾患のための薬の開発に携わりたい。ビヨンドトゥモローは、自分が変化を遂げ、輝くことのできる場所になるはずと考え、プログラムへの参加への期待に胸を膨らませている。

岡林由里子　　香川大学経済学部（土佐高等学校卒業）
幼少時に父を亡くし、以来、母子家庭に育つ。反抗期の為暴力を振るうようになった弟を抱えながら仕事を頑張る母の姿を見るのは辛く、こんな境遇にいるのは自分だけだろうと思っていたが、ビヨンドトゥモローの学生たちの体験記を読み、苦しい環境の中で頑張っている人たちがいることを知り、涙があふれた。彼らが、辛い過去があったことを感じさせないほどイキイキとしていて、仲間たちと支えあい、夢に向かう姿を見て、自分も変わりたいと強く思った。そして自分が成長する姿を弟に見せ、学ぶことの楽しさ、人と関わり成長することの喜びを伝えたい。大学では経済学を学び、将来、地元である高知県の地域活性化に貢献することが夢。

大山貴史　　山口大学経済学部（愛媛県立松山北高等学校中島分校卒業）
愛媛県の離島のみかん農家に生まれた。小学生の時に父が自殺して以来、日本語が不自由な母を支え、新聞配達をしながら勉強と部活を両立させてきた。島という限られた空間に暮らし、世界を見渡すことができないと感じたことから、高校生の時にビヨンドトゥモローに参加し、仲間と出会い、人生の転換点になった。2017 年は、大学を休学し、母の祖国であるフィリピンに渡り、英語学校運営補助のインターンシップに従事した。海外滞在を通し、アジアの国々の活力を目の当たりにし、世界における日本の地位を高めるべく、ビジネスを通して貢献したいと考えている。



菅野渉　　静岡理工科大学理工学部（加藤学園高等学校卒業）
生後間もなく乳児院に入り、その後、児童養護施設に入所した。なぜ自分は両親と生活できないのかと自問自答した日々もあったが、いつも優しく、時には厳しく接してくれる施設の職員の方々への感謝の気持ちがあるからこそ、自分が頑張ることができるということに気づくことができた。費用面の難しさから、大学進学をあきらめかけたこともあったが、将来、災害時に活躍する救助ロボットの設計や製作に携わるという夢を追うべく、大学進学を決意。ビヨンドトゥモローに参加してから、逆境に負けず前に向かう仲間の姿に刺激を受け、周囲に「顔つきがよくなった」と言われるまでに自分自身がイキイキするようになったと感じている。

鬼追成花　　京都外国語短期大学キャリア英語科（東京都立江戸川高等学校卒業）
父子家庭で育ち、男手ひとつでたくさんの愛情をもって育ててくれた父を小学 6 年生の時に亡くした。当時、高校 1 年生だった兄が、家族が一緒に暮らすことができるようにと、自分が高校を退学し、幼い兄弟を養ってくれたことを心から尊敬している。周囲の友人と同じように暮らすことができない不自由さを感じるのは辛いことだったが、それもよい体験であったと、今は胸をはって言うことができると思う。将来は、発展途上国の貧困問題や教育問題に取り組み、厳しい環境で生活する子どもたちに、行動すればどんなことも実現可能なのだと、彼らの夢を後押しできるような人間になることをめざし、進学を決意した。

小岩真純　　福島大学行政政策学類（岩手県立杜陵高等学校卒業）
幼い頃より父子家庭に暮らし、東日本大震災後、経済的に厳しい家庭の状況に不安を感じる中、母の祖国であるフィリピンを訪問。路上で働く子供たちの姿を目の当たりにし、自分自身を奮い立たせ、帰国後、高校を退学し、通信制高校へ転学。毎日アルバイトして大学進学費用を貯め、夜間制の大学に進学した。将来は、社会的に弱い立場にある人が学校教育以外の教育に参画できるための取り組みに従事したい。ビヨンドトゥモローは、自分にとって、尊敬する仲間がいる場所であり、今まで知りえなかった他者の体験を知る場であり、また、将来のビジョンを考えさせられる場であり、いつも自分という存在を認識するための拠り所であると思う。

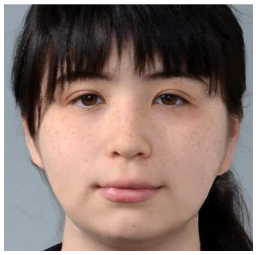
後藤綾乃　　岩手県立大学盛岡短期大学部（岩手県立福岡高等学校卒業）
小学生の時に父親の暴力が原因で両親が離婚し、母子家庭となったため、経済的に苦しく、食事を満足にとれない時もあった。しかし、そのような体験があってこそ、どんな困難に直面したとしても自分で道を切り開き進んでいく精神力、ひるむことのない心の強さ、他人を思いやる心を身に着けることができたと思う。フィリピンでは、生まれた環境が原因で夢を諦めてしまう子どもたちが多いことを知り、将来は、そのような子供たちの力になりたいと考えている。ビヨンドトゥモローに参加することで、海外で活躍するための実践力を身に着け、途上国で必要とされているものは何なのか、貧困に対して自分にできることは何なのかを考えたい。

佐々木琉希　　東北学院大学教養学部（岩手県立大船渡高等学校卒業）
東日本大震災で父と祖父母を亡くし、自宅も流失。大切な友人も津波で亡くし、多くのものを失った。しかし、残された自分にできることは、亡くなった人の分まで精一杯生きることだと考え、震災前から取り組んでいた野球を震災後も継続し、全国大会にも出場を果たした。将来は、防災に関する仕事に就き、自分が震災で経験したこと、そして防災の大切さを伝えていきたいと考えている。ビヨンドトゥモローに参加し、自分の被災体験は、マイナスの出来事ではなく、今後の災害による被害を防ぐための力となることに気付いた。活動を通して、仲間と語り合い、自分に何ができるかを考え、自分の可能性を見出すことができるようになったと思う。

宍戸美紅　　早稲田大学政治経済学部（早稲田大学本庄高等学院卒業）
中学校 2 年生の時、大好きだった母を亡くした。反抗期で母の優しさに気づくことができなかった自分を責め、母の病状が悪化する現実に心が追いつかない間に母が亡くなり、人生の中で最も辛い体験をした。しかし、必死に生きようとした母に顔向けできるようにと勉強に打ち込み、自分次第で生きる希望をつかむことができることを知った。母を亡くした経験は、自分を、人の痛みを誰よりも理解できる人、共感できる人にしてくれたと思う。今回、ビヨンドトゥモローの仲間たちに出会い、自分の過去を打ち明け、自分の過去を見つめ直し、自分とは異なる痛みを持つ人を知ることで、自分がより強くなれるはずだと考えている。

鈴木博文　　中央医療技術専門学校診療放射線学科（東京都立富士高等学校卒業）
家庭の事情で高校 2 年次に児童養護施設に入所。辛い体験だったが、この経験があってこそ、自分にとっての家族の存在の大きさや人の大切さを知ることになったことを誇りに思っている。様々な経験を通じて医療への憧れを持ち、診療放射線技師になることを志し進学を決意。高校 3 年で初めてビヨンドトゥモローの活動に参加し、大きな刺激を受け、自分のもっと世界を見たい、行動したいと思うようになった。ビヨンドトゥモローは、仲間たちと意見を交わし、自分の考えを聴いてもらうことのできる、第二の家族のような場所だと感じており、今後、自分が他の参加者によい変化をもたらせるような存在になりたいと願っている。

高橋瑞希　　岩手県立宮古高等看護学院（岩手県立久慈東高等学校卒業）
幼少期に両親が離婚し、その後父親が亡くなる。経済的に厳しい暮らしの中で、やりたいことがあっても諦めるようになってしまった。進学が就職か迷っていた高校 2 年生の時にビヨンドトゥモローに参加し、様々な困難を抱えながらも輝いている仲間たちに出会い、くよくよしている自分が情けなく、小さく見えた。仲間の姿に背中を押され、自分も夢に向かって輝くことを決意し、助産師となり、地元の出産における課題解決に取り組みたいと思うようになった。ビヨンドトゥモローは、それぞれに苦しみを乗り越え、人の気持ちや痛みを理解できる人たちが集う、素敵な場所だと思う。そして自分自身も、人に手を差しのべられる人になりたい。



壷内楽　　大阪大学外国語学部（愛媛県立今治西高等学校卒業）
カナダで生まれ、幼少期を過ごす。カナダ人の父と日本人の母が離婚し、母と兄弟と共に日本に帰国。辛い体験だったが、カナダという土地には温かい記憶がたくさんあり、いつかカナダを訪れ、父に再会したいと考えている。発展途上国の開発に携わるという夢を追うべく、大学で国際協力について学びたい。英語だけでなく、スペイン語も習得し、現地の人々のニーズに密着した活動をできる人材になりたいと考えている。ビヨンドトゥモローの活動では、国内外での活動に参加し、自分の夢に向けて大きく成長したい。

西田直樹　　大阪学院大学法学部（京都翔英高等学校卒業）
小学生の時に、母を亡くし、児童養護施設に入所。辛く悲しい出来事だったが、辛いことを知っているからこそ、人に優しくできると考え、前向きにとらえるようになった。児童養護施設に暮らす中で、これまでに 4 年制大学に進学して卒業した人がいないため、自分も就職するものだと思っていたが、政治や行政について学びたいと考え、大学進学を志すことを決意した。以来、アルバイトに力を入れ、貯蓄に励みながら、受験勉強に打ち込んできた。将来は、困っている現場の声を社会の改善に反映できる、ボトムアップ型の政治や行政を実現したいと考えている。

萩原みらい　　福島大学人間発達文化学類（群馬県立渋川女子高等学校卒業）
高校 3 年次に父が自殺。父の死、父の人生と向き合うことは、今まで見えていなかったことを自分にまっすぐに教えてくれたと思う。幼い頃から、安全に暮らしたいという理由で公務員を希望していたが、「やりたいことを職業にする」と決め、声楽と音楽教育に携わることを目指すことを決意。ビヨンドトゥモローの学生たちが、様々な背景を持ち、過去や現在と向き合いながら、自分の役割を探す姿がきらきらとまぶしく見え、自分もその気概に触れたいと考え、プログラムに応募した。ビヨンドトゥモローの仲間たちとの会話の中で、初めて自分のバックグラウンドを人に話すことができ、前向きで柔らかい思考をできるようになったと思う。

長谷真由子　　青山学院大学文学部（平塚学園高等学校卒業）
中学生の時に最愛の母を亡くし、兄弟たちと共に児童相談所に保護を求め、児童養護施設に入所した。母の死は悲しく辛いものだったが、自分と兄弟を大きく成長させ、また、母が伝えたかったであろう「自分を大切にすること」に気づくことができた。大学進学など考えてもいなかったが、英語が得意だった母に憧れ、将来は通訳者となるべく、大学に進学することを決めた。ビヨンドトゥモローに参加することで、たくさんの人と出会い、社会問題への理解を深め、視野を広げ、文化や言語を超えて人と人をつなぐことのできる通訳者となることを目指している。

浜川麻美　　甲南大学文学部（大阪府立吹田東高等学校卒業）
小学校 6 年生の時に、大好きだった母が自殺。「神様は、乗り越えられると判断した人にしかその試練を与えない」という言葉に支えられ、その後の日々を一生懸命に生きてきた。このような経験から、自分も人を言葉で幸せにしたいと考え、国語科の教員を目指している。大学では、深い知識を身に着けるだけでなく、英語圏への留学を果たし、日本と異なる文化を世界を知りたい。ビヨンドトゥモローに集う学生たちの多くが、家族との死別・離別を経験しており、そのような仲間とつながることができることに目を開かされる想いで応募した。活動を通して、かつて一歩も動けず立ちすくんでいた自分が、一歩を踏み出すことになるはずだと思う。

町中大悟　　東北学院大学法学部（岩手県立黒沢尻北高等学校卒業）
小学生の時に母を、中学生の時に妹を亡くす。それは人生の中で最もつらい出来事だったが、いつか二人に会った時に、自分の人生を誇らしく語れるような恥じない人生を歩むため、そして、たった 13 年しか生きることができなかった妹の分まで生きるため、後ろは振り返らずに前を見て歩んでいこうと考えている。ビヨンドトゥモローの活動でアメリカを訪問し、英語力のなさに悔しさを覚え、英語の勉強に励み、また、国際情勢についての理解を深めるように努力している。将来は、テレビ局や新聞社で働く記者となり、東北のことを世界に発信し、また、世界のことを東北に伝え、世界と東北をつないでいくことが夢。

松藤江巳吏　　高知大学人文社会科学部（高知市立高知商業高等学校卒業）
高校時代、ラオスに学校を贈るというプロジェクトに参加し、ラオスと高知をつなぐ活動に取り組み、世界と日本の懸け橋となる仕事に就きたいと考えるようになった。母子家庭のため、経済的な事情で進学や課外活動を諦めなければならないことも多かったが、自分で自分のチャンスをつぶすことをやめたい、家庭環境を言い訳にせずキラキラと輝ける人になりたいと、ビヨンドトゥモロー　ジャパン未来スカラーシップ・プログラムへの応募を決意。ビヨンドトゥモローは、偽ることなく、ありのままの自分を認めてもらえる場所であると感じている。将来は、世界を視野に活躍できるよう、今後の活動を通して自分の視野を広げていきたい。

宮良耀一　　宮崎大学農学部（熊本県立南稜高等学校卒業）
幼少期に両親が離婚、高校在学中に父が他界、祖父と暮らす。父の死の直後に参加したビヨンドトゥモローの活動で、同世代の仲間と話すことによって、亡き父への想いを原動力に変え、ただ悲しんでいた自分を変えることができたと思う。父と交わした最後の言葉となった、「夢を途中で諦めるのではなく、ちゃんと実現させろよ」という言葉に背中を押され、将来、世界規模で日本の農業を考え、農業を通して日本を支える一人になりたいと考えるようになった。ビヨンドトゥモローの活動を通して、自分の世界の小ささを知ったことから、今後、より多くのことを学び、知り、そして他者を支えられるようになりたいと考えている。

山内菜々夏　　九州大学法学部（熊本県立済々黌高等学校卒業）
小学校 6 年生の時に最愛の母を亡くす。母の死について、何もできなかったことを悔やんだ日々もあったが、母の想いに応えたいという気持ちと、産んでくれた母への感謝が原動力となり、強く生きていこうと決意することができたと感じている。経済的な事情で進学を諦めかけていた時、高校 2 年生の時にビヨンドトゥモローに初めて参加し、誰にも語ったことのなかった自分の経験を話すことができた。道に迷いかけていた自分を、多くの人が励ましてくれたことから、夢を諦めずに追いかけることを決意。将来は、法律家となり、奨学金制度の充実や、親のいない子どもの支援に携わり、誰もが安心できる社会を築く力となりたい。